



ニッポン 臨終図巻

ドクター和の

ウィキペディアに約90言語で掲載されている、世界一有名な日本人だったそうです。その訃報も、各国を駆け巡りました。『マジンガーZ』『バビル2世』『キャプテンハーロック』……。1968年にデビューし、自ら歌った主題歌レコードのセールスが700万枚超えてギネスブックに掲載。持ち歌は1200曲を超えていたとか。

アニメソングの帝王・水木一郎さんが12月6日、都内の病院で亡くなりました。享年74。死因は、肺がんとの発表です。

水木さんが体調の異変を感じたのは昨年(2021年)春のこと。公演中に突然、声帯の調子がおかしくなり、その後、病院で検査をしたところ肺がんが発覚。同時にリンパ節と脳への転移も見つかりました。

肺がんの症状としては、咳(せ

286 歌手 水木一郎

声の不調から肺がん発覚

最後のステージは死の9日前



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

き)や痰(たん)、息苦しさなどが知られています。しかし、がんの場所や大きさによっては、このような症状が出ないことも多くあります。水木さんのように声がかすめるなど声帯の異変を契機に肺がんが見つかるケースもありました。がんが声帯をつかさどる神経

を巻き込むために声の調子が変わってしまうのです。こんな症状で見つかった場合は、がんがある程度進行している可能性があります。

水木さんはご自身の声帯に自信があるとい前のインタビューで話しています。声をからすことなく、「24時間1000曲ライブ」を成功させたことも。だからこそ、声が出ないという事態は相当なダメージだったはずですが、がん発覚の時にこんなコメント出していました。

あまり、大きな怪我也病気もなく、休むことなく歌い続けてきた水木一郎にがんという病気を知らせてくれたのは、水木が何よりも大切にしているこの『声』でした。声の不調があったからこそ、がんに気づき、立ち向かうことができました。

そして水木さんはすぐに手術。放射線や薬療法を続けます。麻痺(まひ)した声帯にヒアルロン酸やステロイドなどを注入する「声帯内注入術」と言語聴覚士によるリハビリにも取り組んだそうです。その甲斐あって、歌手活動を再開します。ある研究によると人間の声は、体格や骨格などの先天的要素が2割、生育環境や性格や、心の状態が8割で構成されるそうです。つまり声の性状は、その時の精神状態で大きく変化することもいえます。

水木さんの最後のステージは、死の9日前。かすかな歌声だったかもしれない。だけどアニソンの帝王としての魂は健在。力強くもどろか物哀しいその美声で歌い続けた一生でした。

歌い続けたアニソンの帝王